

<調査票の記入要領・記入例>

調査対象期間
 ●この調査の対象期間は、令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～⑪までの流れに従って記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物
 ●この調査では、**調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物及び副産物（有償・無償引渡物）**だけが記入の対象となります。
 ●廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に「**廃棄物分類番号表**」を掲げてありますので参考にしてください。

発生量について
 ●発生した廃棄物の「名称」と「発生量」の回答欄には、「**焼却**」、「**脱水**」等の処理を行う前の「**名称**」と「**発生量**」をお答えください。
 ○**自社で脱水**している場合の発生した廃棄物とは**脱水前のもの**です。（記入例Eを参考にしてください）
 汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。
<式>：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100%－脱水後の含水率%）÷（100%－脱水前の含水率%）
 ○**自社で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。
 木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。
 ●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。
 ○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
 ○含油廃水を油水分離した場合。 → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。
 ●**廃油（機械油など）**について
 ○ドラム缶の本数で把握されている場合は、1本＝180kg（200リットル）
 ○一斗缶の本数で把握されている場合は、1本＝16.2kg（18リットル）として換算してください。
 ●**廃タイヤ**について、本数で把握されている場合は、
 ○大型車用：40kg/本
 ○普通車用：7kg/本 として換算してください。

記入について
 ●**記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物です。**
 ●**同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入してください。**
 ●**処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考にして記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認した上で記入してください。**
 ●**電子マニフェストとマニフェスト伝票を併用している場合は、マニフェスト伝票（紙マニフェスト）について①～⑪まで記入してください。もしくは、記入するかわりに「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」の控えのコピーを添付していただいても構いません。**

<p>④中間処理方法コード表</p> <p>A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：破碎 H：分級 I：圧縮 J：溶融 K：切断 L：焼成 M：堆肥化 N：銀回収 O：コークス固型化 P：乾熱減菌 Q：煮沸 R：オートクレーブ S：薬物消毒 V：濃縮 W：油化 X：選別 Y：固形燃料化 Z：その他</p>	<p>⑥処理・処分方法コード表</p> <p><自己処理> V1：自社（または自社他工場）で再利用した。 V2：売却できないものを自社で再利用した。 W1：売却（利益があった）した。 Z1：自社で保管している。 Q1：自社（または自社他工場）の処分場で埋立処分した。</p> <p><産業廃棄物処理業者等へ委託処理> U1：処理業者に中間処理を委託した（資源化・リサイクルを含む）。 X1：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。 S1：処理業者の処分場で中間処理をせず、直接埋立処理した。 S2：（一財）広島県環境保全公社で直接埋立処理した。</p> <p><市町村へ委託処理> R1：市町村等が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。 R5：市町村の清掃工場で焼却等の中間処理をした。（ごみ収集を含む） R6：市町村の清掃工場でリサイクルした。</p> <p><その他> Z9：その他</p>	<p>⑨委託中間処理方法コード表</p> <p>A：焼却 B：脱水 C：天日乾燥 D：機械乾燥 E：油水分離 F：中和 G：破碎 H：分級 I：圧縮 J：溶融 K：切断 L：焼成（セメント原材料） M：堆肥化（発酵） N：銀回収 O：コークス固型化 P：乾燥減菌 Q：煮沸 R：オートクレーブ S：薬物消毒 V：濃縮 W：油化 X：選別 Y：固形燃料化 Z：その他</p>	<p>⑪資源化用途コード表</p> <p>10：鉄鋼原料 20：非鉄金属等原材料 30：燃料 31：木炭 41：飼料 42：肥料・堆肥 43：土壌改良材 50：土木・建設資材 51：再生木材・合板 60：パルプ・紙原材料 70：ガラス原材料 80：プラスチック原材料 81：再生タイヤ 90：セメント原材料 91：再生油・再生溶剤 92：中和剤 93：コークス炉原料・高炉還元剤・ガス化 98：その他</p>
---	--	--	--

調査票(その2)の記入例

太字の部分、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票(その2)を記入してください。

区分 F2 行番	①廃棄物の名称	②分類番号	③年間発生量							④方法番号							⑤中間処理後量							⑥処理・処分方法			⑦処理・処分先又は再生利用先の名称			⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地			⑨方法番号			⑩処理後の処分方法			⑪資源化用途		
			百 万	十 万	千	百	十	一	小数点 以下	単位	1次 処理	2次 処理	3次 処理	百 万	十 万	千	百	十	一	小数点 以下	単位	⑥ 処理・ 処分の 方法	⑦処理・処分先又は 再生利用先の名称		⑧処理・処分先又は 再生利用先の所在地		1次 処理	2次 処理	3次 処理	⑩ 処理後 の処分 方法		⑪資源化用途									
記入例:A	1 電子マニフェストを利用		自社で中間処理を行わず、すべて電子マニフェストを利用して処理委託している場合は②～⑪の記入は必要ありません														U1			電子マニフェストを利用			電子マニフェストを利用して処理委託している場合は⑧～⑪の記入は必要ありません																		
記入例:B	2 合成繊維	0601				1	0	0												A								1・2													
記入例:C	3 排水処理汚泥	0210					5	0											B D								1・2														
記入例:D	4 アルミくず	1220				1	0	0																				1・2		20											
記入例:E	5 プラスチック類	0600					5	0																				1・2		30											
記入例:F	6 機械油	0311				9	7	2																	E			1・2		30											
記入例:G	7 廃タイヤ	0608				4	0	0	5																			1・2		81											
記入例:H	8 ガラス研磨汚泥	7426					1	0																			F Z(混練)	1・2													
記入例:I	9 感染性廃棄物	7300				1	2	0	0																A			1・2													

ここでは、中間処理、再生利用や売却した先の名称を記入してください。委託した廃棄物が中間処理後に埋立処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入してください。

<p>記入例:A</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチックの製品くずが年間230t発生し、自社では中間処理を行わず、すべて電子マニフェストを利用して処理を委託した。 	<p>記入例:B</p> <ul style="list-style-type: none"> 合成繊維が年間100t発生した。 自社の焼却施設で焼却を行い、燃え殻が3.5t発生した。 処理後の燃え殻は、電子マニフェストを利用して処理を委託した。 	<p>記入例:C</p> <ul style="list-style-type: none"> 排水処理汚泥が発生し、自社の施設で脱水、機械乾燥を行い、脱水後の残さが10t(含水率85%)であった。 脱水前の量は、計算していないので正確ではないが、脱水前の含水率が97%であるため計算(上記「発生量について」参照)すると、50t程度となる。 <計算式> 10t × (100 - 85) ÷ (100 - 97) = 50t 処理後の汚泥は、●×市の△△産業に処理を委託し、そこで埋立処分された。 	<p>記入例:D</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品の製造過程で不要となったアルミくずが年間100t発生し、プラスチック類が50t発生した このうちアルミくずを岡山県●●市にある××商店に売却し、プラスチック類を鳥取県▲▲市にある○○欄に売却した。 アルミくずは原料にプラスチック類は固形 	<p>記入例:E</p> <ul style="list-style-type: none"> 月平均で一斗缶5本分の機械油が発生した。 重量換算すると年間に972kgとなる(16.2kg × 5本 × 12ヶ月:上記「発生量について」参照)。 これらは、すべて○○市の処理業者(株)×▼に処理を委託した。 (株)×▼では、油水分離後、燃料として再利用された。 	<p>記入例:F</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃タイヤが年間400.5kg発生した。 これらは、すべて納入業者である△△市の■▲タイヤ販売に渡した。 ■▲タイヤ販売では再生タイヤとして利用している。 	<p>記入例:G</p> <ul style="list-style-type: none"> ガラス研磨汚泥が年間10t発生し、それらはすべて×▼町の(株)×▲に処理を委託した。 (株)×▲では、中和及び混練処理した後、埋立処分されている。 	<p>記入例:H</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染性産業廃棄物が年間1200リットル発生した。 これらは、すべて▼▼市の□×(株)に処理を委託した。 □×(株)では、焼却処理後、埋立処分された。
---	---	---	--	---	--	--	--